

令和5年度の成果 及び 技術検討委員会での意見等

①雨天時の便益	<ul style="list-style-type: none"> ・気象データ（公表資料）及び那覇市を含む2次メッシュ（392725）を対象とした2022年6月分の民間プローブデータ（R5分業務内で購入）を活用し、雨天による道路交通の速度低下状況を確認し便益を算出した。 ・特定エリアにおいて、雨天による速度低下を考慮した鉄軌道整備時の道路混雑緩和便益を試算し、便益向上の可能性を確認 <p>【技術検討委員会での意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、沖縄本島全域での便益計測に向けた検討を実施すべきでは
②移動信頼性向上効果	<ul style="list-style-type: none"> ・交通量データ（公表資料）及び2021年度4ヶ月分（4月、7月、11月、1月）の民間プローブデータ（中南部地域）（発注者より貸与）を活用し、当該エリアの代表道路の区間毎の時間帯別の交通量と所要時間の傾向（所要時間の分散）分析を実施し便益を算出した。 ・道路混雑の発生により所要時間の分散が大きくなる傾向がみられる路線を対象に、移動信頼性向上便益を試算し、特定路線では便益向上の可能性を確認 <p>【技術検討委員会での意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、算出された数値の信頼性向上等を考慮し、移動信頼性向上便益検討の深度化の実施可否判断が必要
③観光客の増加	<ul style="list-style-type: none"> ・国内の県外居住者（10,000サンプル）を対象に鉄軌道整備時の来訪意向について、WEBモニターアンケートを実施 ・国内の居住地域及び沖縄来訪経験の有無等を考慮した鉄軌道整備による観光客増加を試算し、それによる便益向上の可能性を確認し便益を算出した。 <p>【技術検討委員会での意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、算出された数値の信頼性向上等を考慮し、より適切な便益算定方法の検討が必要
④インバウンド便益	<ul style="list-style-type: none"> ・訪日外国人6,000万人達成時の沖縄本島への来訪見込みを、設定したシナリオに基づいて統計資料を基に試算し、インバウンドによる便益の影響を算定した結果、便益向上に対する大きな影響は確認できなかった
⑤CUE便益	<ul style="list-style-type: none"> ・H18沖縄中南部都市圏PT調査結果等の統計資料を用いて沖縄本島のCUEモデル（応用都市経済モデル）を構築 ・モデルを用いて鉄軌道整備による人口及び従業人口分布の変化を推計し、それによる便益変化を試算し、便益向上の可能性を確認した。 <p>【技術検討委員会での意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後は、算出された数値の信頼性向上等を考慮し、便益算定手法の深度化が必要
⑥土地区画整理事業等の面整備の便益	<ul style="list-style-type: none"> ・公示地価データ等の統計資料を用いて駅があることでの地価上昇効果を評価可能な地価関数を構築 ・上記地価関数を活用し、普天間飛行場の跡地利用を想定した場合の便益を算出した。 <p>【技術検討委員会での意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後は、算出された数値の信頼性向上等を考慮し、深度化が必要
⑦WEI便益	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄軌道整備による便益算定へのWEI適用の可能性を探るため、鉄軌道整備による沖縄本島の生産性向上の可能性を確認するため、経済センサスデータを用いて産業集積と生産性の傾向分析を実施した。（便益算出には至っていない） ・産業集積と生産性について明確な関係性は確認できていない